

英語科学習指導案

日 時 平成25年5月31日(金) 公開授業Ⅱ
学 級 岩手大学教育学部附属中学校
3年B組40名
会 場 1C2A教室
授業者 芳 門 淳 一

1 単元名 LESSON 3 “Rakugo Goes Overseas” (NEW CROWN ENGLISH SERIES 3)

2 単元について

(1) 生徒観

これまで生徒は、2年間の英語の学習において様々な英文を読み、内容を理解する学習について行ってきた。また、それぞれの単元において、あるもの、こと、人等について、まとめた紹介文を書くという活動もしてきた。しかし、本単元のようなまとめたインタビュー形式の文章を読んだり、インタビューした内容まとめて文章化する活動は初めてである。そこでこの単元を通して、インタビューを継続させる力やインタビューした内容を整理し、第三者に伝える力を養いたいと考える。

また、本単元で学習する言語材料にかかわる主な既習事項としては、現在完了形(継続用法)が挙げられる。前単元において「現在完了形」については、ある過去の時点から現在までの時間の幅を表現しているものと学習した。本単元では経験用法と完了用法を学習するわけだが、have + 過去分詞の形は同じである。そのため意味の違いと使用される場面や状況、キーワードをパターンプラクティスや対話に効果的に取り入れ定着させたいと考える。

表現活動としては、昨年度から様々なテーマのもと、スピーチや英作文といった活動を行ってきた。その結果、ただ単に「英語で話す」「英語で書く」という意識ではなく、「相手を意識して話す」「相手を意識して書く」という意識の向上、表現活動に対する積極性や意欲の向上が芽生えつつある。しかしながら、正しい英文や直訳にこだわりすぎて、難しい英文を表現している生徒も多い。また、適切な声量や抑揚、間の取り方、聞き方にも課題が残る。現時点での自分の語彙力や表現できる範囲で相手に伝えるにはどうすればよいかを考えさせることやインタビュー活動を通して聞き手のスキルにも着目させることに留意して、表現活動に取り組ませたい。

(2) 教材観

本単元では日本の伝統文化である落語を題材にしている。日本の伝統文化およびそれを世界に発信することをインタビュー記事や小断を読むことを通して関心を高め、インタビュー活動を通してプロフィール表をまとめ紹介記事を書くという内容である。GET は、エマが故郷のオーストラリアで友達のショーと落語ショーについて話している場面と、エマが健から教えてもらった小断を披露している場面で構成されている。USE は、英語落語家大島希巳江氏のオーストラリア公演でのインタビュー記事の読み取りを扱う。文法事項としては、行ったことのある場所や回数を尋ねる時の表現やたった今終了したことを伝える現在完了形(経験用法・完了用法)を学習する。経験や完了、継続を表す現在完了形を使った文は、今までの経験を尋ねたりとインタビューする場面では効果的に使うことができ会話に幅がでると考える。したがって、それらの表現や言い方についてはパターンプラクティス等を活用しながら定着させたい。さらに、実際にインタビュー活動を行い、その内容についてまとめ、それをもとに記事を書くという活動を行わせる。より現実味を感じさせるため、本校の特徴を生かし、教育学部の英語科専攻の学生や公開授業で来校される先生方へのインタビュー活動を行わせたいと考える。

また、本単元では言語活動の充実のために、「聞くこと」では「まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること」、「話すこと」では「つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工

夫をして話を続けること」、「書くこと」では「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと」にも意識させたい。「聞くこと」「話すこと」「書くこと」の技能の統合を意識した指導を心がけたい。

(3) 学びの自覚化について

本校英語科では「学びの自覚化」において現時点で2つの視点に注目した。その中の一つが「自分の変容の自覚」であり、もう一つが「思考の自覚」である。

本単元でも、「自分の変容の自覚」を図る指導を中心に行いたいと考える。本校英語科で取り組んでいる活動の一つが、学年ごとに年間を通した英作文テーマを設け、同じ題材で英作文活動を年に数回行うというものである。また、それぞれの単元においては、教科書題材に関連させた表現活動を取り入れる。その中で、年間テーマと単元をどのようにつながりをもたせることができるか考えている。

また、表現力を効果的に育成する手段の一つとして、生徒同士での学びあいを取り入れながら、「学びの自覚」を促し、コミュニケーション能力を総合的に高めていきたい。このことを踏まえて、手立てとして次の二つを掲げる。

- | | |
|------------------|--------------|
| ① 年間及び単元のデザインの工夫 | ②他者を意識した表現活動 |
|------------------|--------------|

① 年間及び単元のデザインの工夫

「自分の変容の自覚」とは、1単位時間や単元、年間の学習における自分の変化（できるようになった自分）、考えの変化を自覚することで自らの学びを高めることである。その変容がどうして起きたのか、その過程に気づくことでさらに主体的に学習に取り組むことが期待されると考えた。英語科の教科特性により、生徒は徐々に言語材料が身につき、スパイラルに学習を積みかさねることで、使える英語も増えてくる。そのため、年間や単元を見通して計画的にフィードバックを取り入れ、「学びの自覚化」に迫りたい。そのため、単元のデザイン、ゴールの表現活動を生徒と共有したいと考える。また、英語を通して表現したものや他者とのコミュニケーションの中で、自分の課題や変容を感じさせ、自覚させたい。

本単元は伝統文化である落語を世界に発信している大島希巳江氏のインタビュー記事を読むことを中心として、実際にALTの先生にインタビューをするという題材で構成されている。世界へ発信している大島氏のインタビュー内容や英語落語を通して、英語の魅力、その人の生き方に触れさせたい。また、本校3年生は初めて出会う事柄に主体的に取り組むことに対して苦手意識がある。そこで、初めて出会う方へのインタビュー活動を仕組み生徒に機会を与えたい。さらに、これまでの2年間の学習の成果と自分を振りかえる機会ともしたい。英語を学習している学生や先生方へのインタビューを通して、3学年の年間のテーマである「English for Me」へのつながりをもたせたいと考える（表1参照）。インタビューをしたことをもとに、人物を紹介する英文を作成させることで統合的な学習に発展させたい。

② 他者を意識した表現活動

ことばは相手に何かを伝えるために存在する。そのため、生徒自身がことば本来の意味を自覚することでさらに豊かな表現が可能になると考える。そこで、言語活動を行う際には、「何のための英作文（スピーチ）活動であるか」「読む（聞く）対象は誰なのか」等、ねらいや意図を自覚させながら、コミュニケーションで欠かせることの出来ない「相手」に対する意識を高めさせながら活動に取り組ませたい。

本単元では、インタビュー活動を単元のゴールに据えた。ただインタビューをするのではなく、相手に伝わるような声量、間の取り方を意識させることはもちろん、初対面の方へのインタビューのあり方【声のかけ方・自己紹介・お礼】にも注目させたい。さらに、ただ単に事実を聞くだけのインタビューに終わらず、「なぜ」「どのくらい」「どんなことを」「どのように」と相手の思いや考

えを引き出すようなインタビュー活動に迫りたい。

また、相手意識を高める具体的手立てとして、書いた作品や発表についてはシェアリングし、お互いにアドバイスを行う機会を設けている。シェアリングをすることから、お互いの作品や発表の良さを学びあうことができるとともに、「相手に伝える」ために書いたり、発表したりするという意識を高めることができる。その、学びあいに対して、生徒たちは、「お互いの意見や考えを交流しあって、他の人の考えと自分の考えとを比較して、自分の考えが充実したり、深まったりしていく」「自分の考えを相手に伝える力が高まる」「新しいことばを覚えたり、よりよい表現が見つかったりする」「楽しい」という成果を感じ取っている。

学びあいの中での生徒の育成を目指す中で、最終的な目標は「英語によるコミュニケーションができる」姿である。だからこそ、学びあいの中で生徒の「学びの自覚化」を高めることが、英語力の育成並びに英語によるコミュニケーションを可能にすると考えている。

表1 3学年の年間テーマ“English for me”の表現活動に至るまでの学習デザイン

時期	主な行事	総合学習	単元	主な言語材料	主な題材	“English for Me”へのデザイン	
オリエンテーション「今年度の英語学習について」							
前期 (四月～九月)	入学式 対面式	テーマ『未来を拓く生き方』とは、どのよう な生き方か』 三学年「生き方を考える」	Lesson1 My Favorite Words	受動態	ことばの持つ力 私の好きなことば	“English for Me” ・相手意識 (Writing) ・1.2年既習事項	
	縦割り清掃 写生会		Lesson2 Finland—Living with Forests	現在完了 (継続用法)	異なる自然 異なる文化 インタビューを聞こう あこがれの人物	“My Favorite Words” ・相手意識 (Speaking) ・スピーチの構成	
	市中総体		Lesson3 Rakugo Goes Overseas	現在完了 (経験用法) 現在完了 (完了用法)	日本の伝統 文化の発信 先生にインタビュー	“ゲストにインタビュー” 英語をどのくらいの期間学んでいるか？理由 ・相手意識 (Speaking) ・ゲストにとっての英語とは？ ・期間や理由を尋ねる	
	学習旅行		Lesson4 The Story of Sadako	S+V+O+C It is ~for A to do構文	広島原爆 報道番組に挑戦 大切なことを伝えよう	“私の願い” 意見文(平和)【Writing】 ・世界の平和を考える ・世界の中における日本 ・主張の仕方	
	県中総体 夏季休業		Let's read 1 Learning from Nature	読み物	説明文を読む	“様々な国の生活スタイル” 【Reading】	
	市中陸上 生徒会役員選挙 スポーツ大会		Lesson5 House and Lives	関係代名詞	世界の家と生活文化 日本紹介	“My Hero” 尊敬する人の紹介文 ・相手意識 (Writing) ・わかりやすく伝える ・関係代名詞や後置修飾の活用	
	後期 (十月～三月)		文化祭	Lesson6 I Have a Dream	現在分詞の後置修飾 過去分詞の後置修飾 接触節	アメリカの公民権運動 尊敬する人物を紹介しよう	“English for Me” 私たちが世界のためにできることは 英語を学ぶ意義とは ・相手意識 (Writing) ・自分と世界の関わりを考える
			冬季休業 本校入試 私立高校入試	Lesson7 We Can Change Our World	間接疑問文 want+人+to do	創意工夫と社会貢献 チャットを楽しもう	“To Me” 未来への手紙
			公立高校入試	Lesson8 English for me	how to～ what to～	英語を学ぶことの意義 未来の自分へ手紙を書こう	“English for Me” 英語学習と今後の自分(スピーチ) ・相手意識 (Speaking) ・3年間のまとめ ・英語学習から得たこと ・今後の自分
			卒業式	Let's read 2 A Moment of Peace	読み物	物語文を読む	
		卒業スピーチ	3年間のまとめ	想いを伝える			

3 単元の指導目標

(1) 指導目標

- ①相手の思いや考えをひき出すようなインタビュー活動を行い、それをもとに紹介記事を書くことができるようにする。
- ②英語での落語を相手に伝わるように、抑揚やジェスチャーに意識させ、暗唱させる。
- ③現在完了形（経験用法・完了用法）を用いた文の意味・構造を理解させる。

(2) 評価規準

外国語表現の能力	①初対面の方にインタビューをし、Why や How などを使い考えや思いをひき出すようなインタビュー活動をし、それをもとに紹介記事としてまとめることができる。 ②英語の落語を相手に内容が伝わるように、抑揚やジェスチャーに気をつけて暗唱し演じることができる。
言語や文化についての知識・理解	①現在完了形（経験用法・完了用法）を用いた文の意味・構造を理解している。

4 単元の指導計画および評価計画

時間	主な学習内容と学習活動	評価規準	評価方法
1	○本単元で学ぶ題材や身に付ける文構造を知る。 ・とびらのページを用いて、オーラルイントロダクションを用いながら、着物の女性が何をしているか、会場の人たちがなぜ笑っているかなどについて述べ合う。 ・本単元で身につける技能や理解する内容を知る。 ・本単元のゴールの表現活動を確認する。 ----- ○対話文の内容を理解する。 ・話題は何なのかを確認し、エマが伝えたいことを読み取る。 ・教科書本文を音読し、暗唱する。・会話の続きを考える。		
2	○現在完了形（経験用法）を用いた文の意味・構造を理解する。 ・現在完了形（経験用法）を用いて、自分の経験を伝えたり相手の経験を尋ねたりする練習をする。 ・スミス先生が行ったことのある場所を聞きとる。 ・ペアでお互いが行ったことのある場所をたずね合う。 ・尋ねたことをもとに、第三者に伝える英文を作成する。	言知①	後日ペーパーテスト
3 4 5	○現在完了形（完了用法）を用いた文の意味・構造を理解する。 ・現在完了形（完了用法）を用いた文の構造を理解する。 ・現在完了形（完了用法）を用いて、行動や状況を説明する練習を行う。 ・教科書本文を通して、エマのおこなった小噺の内容を理解する。 ・教科書外の落語の小噺を読む。 ・英語の落語を視聴する。 ・教科書本文を音読練習し、暗唱する。→ Role Play を行う。	言知① 表②	後日ペーパーテスト VTR 撮影（形成的評価の段階）
6	○Rakugo Goes Overseas を読んで、インタビューについての概要や大切な部分を正確に読み取る。		

7	<ul style="list-style-type: none"> ・落語や落語の特徴について知っていることを話し合う。 ・キーワードを参考に黙読し、関係のある語句にアンダーラインを引きながら大まかな内容を読み取る。 		
8	<ul style="list-style-type: none"> ・段落ごとの内容を自分の言葉でまとめる。 ・本文を精読し、英問の答えや post-reading について考える。 ・希巳江さんにとっての英語とは何かを考える。 ・インタビューの要点をまとめ、インタビュー記事を作成する。 ○本文のリテリングを行う。 ・音読練習をする。・マッピングを参考にリテリングをする。 ・リテリングしたことを書き出す。 		
9	<ul style="list-style-type: none"> ○先生（初対面の人）にインタビューを行い、紹介記事を作成する。（1 / 3） ・モデルのインタビューを聞く。 ・ゴールの確認（紹介記事を読む） ・インタビュー項目を考える。 		
10	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; text-align: center;">本 時</div> <ul style="list-style-type: none"> ○先生（初対面の人）にインタビューを行い、紹介記事を作成する。（2 / 3） ・インタビュー項目を交流。 ・ペア及びグループでインタビュー練習を行う。 ・インタビュー活動を行う。 ・インタビュー結果を整理し、補足インタビューを行う。 	表①	インタビューの観察 次時の作品の内容
11	<ul style="list-style-type: none"> ○先生（初対面の人）にインタビューを行い、紹介記事を作成する。（3 / 3） ・インタビューの結果を整理する。 ・紹介記事を作成する。 ・グループで紹介記事の交流を行う。 	表①	紹介記事の内容
12	<ul style="list-style-type: none"> ○文法のまとめを行う。 ・現在完了形（経験用法・完了用法）を用いた文の構造を確認する。 ・不定詞の副詞的用法（感情の原因・理由）の再確認をする。 ・単元文法テストを行う。 ・落語の暗唱発表会をおこなう。 	言知① 表②	単元ペーパーテスト VTR 撮影

5 本時について

(1) 主題 「ゲストにインタビューをしよう～相手の思いや考えをひきだそう～」

(2) 指導目標

相手の思いや考えをひきだすようなインタビュー活動を行い、それをもとに紹介記事を書くことができるようにする。

(3) 本時の評価

①本時では形成的評価は行うが、総括的評価は行わない。後日作品により評価を行う。

②本時は単元の中では10時間目にあたる。本時の指導目標は単元における外国語表現の能力の指導目標と同じである。ただし、本時のみでこの目標を達成するものではない。あくまでも次時を含めた単元の終了時にここまでの力を付けさせたいと考える。そこで次時の英文作成の活動後の作品の内容により総括的な評価は行うこととする。本時での形成的な評価として、外国語表現の能力の段階のとらえは以下の通りと考えている。

外国語表現の能力単元目標①に関する形成的評価段階のとりえ	
5時間目まで (GETの段階)	<ul style="list-style-type: none"> ・「今まで行ったことのある場所と回数」について英文でたずねることができる。 ・現在完了形（経験用法・完了用法）の学習をふまえ、パターンプラクティス段階の英文を1文から2文程度書くことができる。
8時間目まで (USEのRead段階)	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー記事の要点をまとめることができる。 ・Readの本文を本人になりきって音読することができる。 ・本文のリテリングを行うことができる。
9時間目まで	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルの紹介記事を読みゴールのイメージをもつことができる。 ・インタビュー項目をペアで考えることができる。
10時間目(本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・初対面の人に対して、適切なインタビュー活動を行うことができる。 【初対面の方に対しての話しかけ方、自己紹介、インタビューの許可及びインタビュー内容、考えを引き出すための工夫】 ・インタビュー項目の中に、現在完了形を適切に用いている。
11時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー結果をもとに紹介記事を完成することができる。 ・紹介記事を発表し、誰にインタビューしたかを伝えることができる。

(4) 指導の構想

本時は本単元の表現活動「ゲストにインタビューをし、その内容を整理し紹介記事を作成する」時間として位置づけた。前時までに言語材料として生徒たちは現在完了形（経験用法・完了用法）の定着を図ってきた。また、活用場面であるUSEにおいては大島希江氏へのインタビューの記事を読み取り、落語を世界へ発信する理由や海外に紹介したい日本文化について考えた。また学習した文法事項がどのようにインタビューの中で使用されているかを確認した。さらに音読練習と表現活動の手がかりとして、リテリング活動を行った。帯活動ではQ&Aや2年生次の教科書を活用した発展的な会話活動を継続して行っている。

本時は今までの学習を参考にして、ゲストの方にインタビュー活動を行う。このインタビュー活動は本校の3学年生徒が苦手とする分野である。総合学習でもインタビュー活動を行ってきているもののなかなか上手に行えていない現状がある。初対面の人に適切にインタビューを行うスキルはもちろん、インタビュー項目を考えること、インタビューした内容を整理することなど英語を使用する他にも様々な面で負荷がある。しかしながら、学習を通してそれらを学び、次へ生かすことでコミュニケーション能力の育成につながると考える。

本時の表現活動は「学習指導要領の内容(1)言語活動 ア 聞くこと (ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。(エ) 話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。イ 話すこと (イ) 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。(エ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること」を重点とした。さらに次時での「書くこと (ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。(オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。」につなげ、統合的な言語活動にせまる。

前時にモデル提示を行いゴールをイメージさせ、インタビューの目的を共有し、自分ならば何を質問するかを考えさせる。また、年間のテーマである「English for me」との関連から、大学生や先生方に「なぜ英語を学んでいるか」「どのくらい学んでいるのか」「教師になった(なろうとしている)理由」についてもたずねることで、自分にとっての英語が何であるかを考える一つの視点とさせたい。指導の際のポイントとして、無理に現在完了を使用するのではなく、自然な流れで現在完了形が使用されるように意識させたい。また、初対面の人に対して話をする際、どんなことが必要かも考えさせる必要がある。本時は帯活動を行った後、インタビュー活動からスタートする。生徒にとって初対面の方に英語で質問することは容易なことではない。そのため、前時までに質問を考え、ペアで交流し、口頭

練習に取り組ませる必要もある。インタビュー活動の後に全体でどんなインタビューを行ったか交流をし、その情報だけで紹介記事を完成できるかを考えさせる。その後、さらによりよい記事にするためにはどんな質問をし、情報を得ればよいかを交流し、再度インタビュー活動をさせる。それをもとに次時では、ペアで紹介文を作成し、自分がインタビューした人物の紹介を行わせたいと考える。

(5) 本時の展開

段階	学習内容及び学習活動	時間	■学びの自覚化とのかかわり
導入	0. 3分前学習 (英語の歌 IF We Hold on Together) 1. あいさつ 2. Warm-up ・ペアトレーニング (インプット、教科書の対話) 3. Today's Goal の確認 ・先生方に英語でインタビューをすることを確認する。	7	■継続して取り組むことで成長する自分に気づく。
	「ゲストにインタビューをしよう～相手の思いや考えをひきだそう～」		
展開	4. Review ・質問内容をペアで口頭練習を行う 5. Step1 インタビュー活動 ・インタビューを行う際の注意点を確認する ・インタビューの仕方の確認 (初対面・お礼) ・インタビュー活動を行う (5分) ・プロフィール表へのメモ 6. Step2 交流 (全体→グループ) ・どのような質問をしたのかを交流する ・紹介記事にするための情報は十分かを確認する 7. Step3 Think (ペア) ・交流をふまえ質問項目を相談・確認する 8. Step4 インタビュー活動 ・再度同じ方にインタビューを行う (5分) 9. Step5 メモの整理 ・プロフィール表の整理を行う	38	■記事をよりよくするために、どんな情報を得れば効果的かを考える。 ■本時の最初に比べて、上手にインタビューできるようになったことを自覚する。(変容の自覚)
	終結	10. 次時の確認 ・次時にインタビューの内容とプロフィール表を参考に紹介記事を作成することを確認する 11. 振り返り ・本時の内容について振り返り、学習チェックシートに記入する 12. あいさつ	5